

病防第26号
令和8年（2026年）8月19日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について（送付）
このことについて、病虫害発生予察特殊報第3号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

令和8年度（2026年度）病虫害発生予察特殊報第3号
令和8年（2026年）8月19日
熊本県病虫害防除所長

- 1 病虫害名 スモモミハバチ
- 2 学 名 *Monocellicampa pruni*
- 3 発生作物 スモモ（バラ科）

4 発生確認の経過

令和7年（2025年）5月、県内複数のスモモ園で、穴が開き肥大が遅れた幼果が多数発生した（写真1）。表面に微小な侵入痕が見られる果実では、内部を食害している幼虫が確認された（写真2、3）。翌令和8年3月、発生園地において、着花部付近に白色粘着トラップを設置したところ、ハバチ類の成虫を多数捕獲した（写真4）。同園では、その後の幼果期に前年同様の被害が発生していた。門司植物防疫所に捕獲した成虫の同定を依頼した結果、本県では未確認のスモモミハバチと判明した。

5 国内の発生状況

本種は、海外では中国と韓国で発生している。国内では、令和元年（2019年）に山口県で初めて発生が確認され、その後、広島県、大分県、福岡県、佐賀県から特殊報が発表されている。

6 形態及び生態等の特徴

（1）形態

幼虫の体色は白色～淡黄色、頭部は淡黄色、5齢を経た老齢幼虫の体長は約10mmに達する。成虫の体色は黒色で体長は5～6mmである。

（2）生態

本種はスモモにのみ寄生し、年1回発生する。中国では、土中の蛹がスモモの開花初期に一斉に羽化し、がくや花たくの表皮に産卵することが知られている。ふ化した幼虫は幼果内に食入し、食害しながら内部に糞を蓄積する。食入後約30日で老齢となった幼虫は穴を開けて脱出し、土中で土まゆを形成後、蛹化する。

(3) 被害

幼虫が食入した果実は肥大が止まり、そのほとんどが6月上旬までに落果する。開花期に害虫防除が行われない園では被害が年々拡大し、最終的には収穫皆無となる恐れがある。

7 防除対策

- (1) 発生園では、開花終了後直ちにスモミハバチに登録がある薬剤で防除を行う。幼虫は落弁直後に食入を開始するため、防除が遅れないように注意する。
- (2) 翌年への越冬数を減らすため、4月末頃から生育が悪い幼果を徹底除去する。
- (3) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、使用基準を遵守する。住宅地付近や近くにミツバチの巣箱がある園地では、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。



写真1 果実の被害（脱出痕）



写真2 果実表面の侵入痕



写真3 被害果内の幼虫



写真4 粘着トラップで捕獲した成虫

熊本県病虫害防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
担当：清永
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493